



2020年2月14日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
 代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン
 (コード：9704、東証第1部)
 問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹
 (TEL. 03-3436-1860)

通期業績予想と実績との差異についてのお知らせ

2019年8月9日に公表いたしました2019年12月期(2019年1月1日～2019年12月31日)通期業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせします。

記

1. 2019年12月期通期連結業績予想と実績との差異(2019年1月1日～2019年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,200	100	130	10	0円04銭
今回実績値(B)	7,001	△53	△35	△198	△0円78銭
増減額(B-A)	△199	△153	△165	△208	
増減率(%)	△2.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2018年12月期)	6,809	△73	△324	△446	△1円76銭

2. 差異の理由

当社グループの宿泊事業部門においては、8月にオープンしたアゴーラ・プレイス難波、11月にオープンしたアゴーラ・金沢における売上高の増加が寄与いたしましたが、大阪地域において新規開業ホテルが増加したことにより、市場に供給される客室数が増加したため、宿泊単価が伸び悩み、前回予想を若干下回り7,001百万円となりました。費用面では、既存ホテルの保守・修繕費用の見直しや、人員配置の適正化をはじめとした収益力を高める等の取り組みを継続しており、一定の効果を出しました。しかしながら、売上の伸び悩みにより、コストを十分に吸収できなかったことに加え、アゴーラ・プレイス難波およびアゴーラ・金沢の各新規ホテルの開業等により販売管理費が8百万円増加したことにより、営業損失は53百万円となりました。また、営業外費用において、当社の豪ドル建ての資産に関わる為替差損として26百万円計上する等した結果、経常損失は35百万円となりました。また、特別損失として7百万円を計上する等した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は198百万円となりました。

以上